

学 園 広 報

No.64 2017.2

学校法人 平和学園 神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
TEL 0467 (87) 0131

<主な内容>

- 70周年を祝う
- 創立70周年記念礼拝
- 「平和学園」と私
- オープンスクール・平和祭
- 法人だより

平和学園幼稚園・平和学園小学校
アレセイア湘南中学高等学校
<http://www.aletheia.ac.jp/>

70周年を祝う

理事長 山口 洋一郎

平和学園は1946年に創立され、本年度創立70周年を迎えました。前身は我が国最初の虚弱児童施設として生まれた白十字会林間学校です。

戦後すぐに白十字会林間学校の隣の数地で、賀川豊彦先生、村島帰之先生によって林間の自然豊かな学校として平和学園が誕生しました。

私は1959年に平和学園小学校を卒業しました。生まれは1946年でちょうど平和学園誕生と同じです。私が小学生だった頃は、クラスは一つだった二つだったりしていました。が、大体一学年40名程度でした。松林の中に二クラス一棟の木造校舎がぼんぼんと建っていました。周りは砂の遊び場で、皆で林間を走り回っていたものです。

毎日礼拝があり、音楽の五十嵐先生



1953年小学校入学式
2列目 左から3人目が山口理事長

のピアノで讃美歌を歌い、牧師先生のお話をおとなしく聞いていた記憶があります。その中には賀川先生、村島先生もいらしたのかもしれませんが、全く覚えていません。2、3年生の頃だったでしょうか。授業が終わると時々級友と学園の傍の村島先生のご自宅にお邪魔して、療養していらつしやる先生と窓越しにお話した事が思い出されます。同級生はほとんど市内に住んでいて、自転車やバスでの通学でした。私も雨の日を除いて毎日旧鉄砲道を2km程、子供用の自転車で通っていました。

当時市内に学校が少なかったこともありすが、今と変りない紺色の制服を着て、子供心にある種の誇りをもって私学である平和学園に通っていました。また、沢山の思い出とともに、知らず知らずのうちに体の中にしみこんでいたのでしょう、大人になっても学園で学んだキリスト教精神、言い換えれば「人のために尽くす」という教えはずっと私の心樫になっっています。

村島先生は「卒業生の中から理事長、学園長、校長が出てほしい」とつぶやいていらしたそうです。私が夏村前理事長の後を受けて、図らずも学園卒業生として最初の理事長を拝命してすでに10年が経ちました。この立場になり、母校のことや創立者お二人の足跡を知る機会が多く与えられ、賀川先生、村島先生が残された功績、そして目指されたことを改めて確認することができました。特に、賀川先生は、世界を駆け巡って世界平和の実現を目指して伝道して回ったこととです。「世界連邦」設立に尽力され、ノーベ



1940年代の平和学園周辺の様子
上方が海側。EPMMAの文字辺りが現在の中高のグラウンド

ル平和賞にノミネートされたことはよく知られています。

平和学園は70年もの間、茅ヶ崎を中心とした地域で、初等中等教育を担ってきました。近年はさらに地域に関わり、地域から可愛がられる学校になるよう開かれた学園を目指しています。それもお陰様で、少しずつ達成されつつあるのではないかと思います。

今、平和学園、アレセイア湘南が指している教育方針は幼小中高一貫のグローバル教育です。この方針は、建学の精神「キリスト教信仰にもとづき、自由で平和であたたかい愛の学園をきずき、神を信じ隣人を愛する人、真の平和をつくるまことの人を世に送り出すことである」に合致していると確信しています。

平和学園幼稚園・小学校、アレセイア湘南中学高等学校は、今後とも多くの学校関係者の支え、そして、地域の皆様の支えのもと、このグローバル教育を発展させ成長させて、地域の初等中等教育に貢献してまいりたいと思います。

聖書の言葉



彼が刺し貫かれたのは、わたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。(イザヤ書53章5節)

イザヤ書53章は「主の僕(しもべ)の歌」と言われています。ここに出てくる「彼」が主の僕です。「わたしたち」は人間のことです。人間すべてが罪、咎の下にあります。「正しい人はいない。一人もない。」(ローマ2:10)と書かれている通り、正しい人間は一人もいないのです。

さて、主の僕というのは、人間を正しい者として歩むことができるようにしてくださるお方、実は、イエス・キリストのことです。神はわたしたち人間のすべての罪、咎をイエスに負わせます。それがイエスの十字架の死です。これによって人間から、罪、咎が取り除かれます。これがすなわち聖書でいう「平和」ということです。

イエスの十字架の死は神の御心でした。神は人間に本当の平和を与えるために主の僕を打ち砕き、懲らしめ、わたしたちの罪、咎を取り除いてくださいました。なぜなら神がわたしたちを愛してくださっているからです。

イエスの死によって贖われた人間の罪、ここから生まれる「平和」の意味を改めて確認し、わたしたちが神に愛されていることに感謝したいです。そして、神に愛されている人間として正しい歩みが出来るように努力したいものです。

創立70周年記念礼拝・ オープンスクールを終えて

学園長 所澤 保孝

10月5日(水)に多くの関係者にお集まりいただき、賀川村島記念講堂において、創立70周年記念礼拝を行うことが出来ました。当日は台風による影響が危ぶまれる中、幸いにも天候に恵まれ、礼拝、ご挨拶、グローバル教育の紹介、全学園オープンスクールの行事を無事行うことが出来ました。

平和学園はそれぞれ異なった役割を帯びた教育機関、すなわち学園の肢体である幼稚園から高等学校までの学校から成り立っています。私たちは今日まで70年間、神さまから託された子どもたちを教え、一人ひとりに授けられた賜物を最大限に育てる努力を行って参りました。これからもこの使命の下に、共に喜び、共に苦しみ、共に尊ぶ、愛の絆によって結ばれた共同体の力を強めて参りたいと願っています。学園がその使命を十分に果たすことができますように、これからも皆さまのより一層のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

創立70周年記念礼拝では元理事長・学園長の夏村充牧師にお話をし頂き、限られた時間だったにもかかわらず、簡素で温かい心からの礼拝を捧げることが出来ました。

1945年に戦争が終わって、本校の前身である白十字会林間学校を再開しようとした時に、児童数はたった7人でした。それが今日、学園に学ぶ者約1200人、教職員約



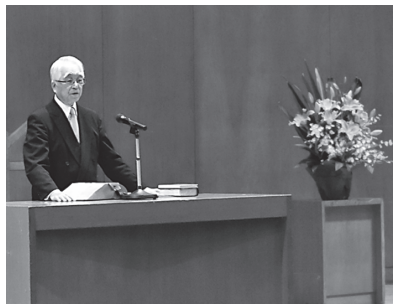
創立70周年記念礼拝のご報告に際して、学園にお子様を託してくださいました保護者・保護者会の皆様、卒業生・同窓会の皆様、神奈川・湘南地区・特に、茅ヶ崎地区の皆様、学園の教育のためにご奉仕してくださり退職なさった教職員の皆様、そして長い間ご準備くださった倉澤条太委員長をはじめ創立70周年記念事業実行委員会の皆様に深く感謝し、お礼を申し上げます。

創立70周年記念礼拝

佐藤 重人

平和学園創立70周年を記念して賀川村島記念講堂で記念礼拝が行われました。茅ヶ崎市副市長をはじめ、各方面から多くの方々にご参集くださいました。元教職員や卒業生もたくさんいらつしやいました。

礼拝のメッセージャーは元理事長・学園長の夏村充先生。学園の沿革、茅ヶ崎市内での平和学園の対外的な関わりや、今まであまり知られていない近隣の学校との関わりなどについて述べられました。



また、アレセアのアレセイアの生徒とソードの生徒ともありました。ある生徒が「自立と共生」という人生の根幹に触れるアレセイアの学習のテーマについて先生に電話をしてきたそうです。人生をかけて取り組む課題にお互いに向き合った時に、その生徒の姿勢、またその課題を与えたアレセイア湘南高校の姿勢は人間教育をする学校としてしっかりと立っていると感じられたということです。このように教師と生徒という枠や、立場を超え、お互いに心触れ合うこと自体がまさに人間教育であり、その機会を学校が豊かに作っていることを確信できたとお話くださいました。

最後に、初代校長村島昶之先生のお人柄の紹介がありました。子どもたちが先生の傍らに集まり、語り合っている時は白髪まで抜いたという話を当たり前に、そして大事になさっていたそうです。また、10年前、創立60周年の際に石碑に刻んだ先生の言葉が紹介されました。「悩みのある日は神に祈り、喜びの日は神を賛美してまっすぐな道を歩いてください。」という子どもに向けた手紙の一文です。これは子どもに対する村島先生の想いが伝わるものであるとともに、平和学園の教育を語るに足る言葉になっています。この平和学園が見えざる神の御手の中に



あり、最も大事な真理に向かって探究する学校であってほしいと願いを込めメッセージを締めくくられました。礼拝後の挨拶の中で所澤学園長から今年創立70周年を祝うにあたり掲げられた3つの目標が語られました。一つ目は70周年を迎えられたことを神に感謝すること、二つ目は今年度一年間を通して学園に集う子どもたちとともに70周年を祝うこと、そして三つ目は70周年を記念してこの平和学園を見てもらう機会を作ることでした。

(小学校教諭)

司 式 横山厚志
奏 楽 市毛直子

前 奏	J.S.バッハ「トッカータニ短調」	
讃美歌	394「信仰うけつぎ」	一 同
聖 書	マタイによる福音書5章9節	司式者
讃美歌	531「こころの緒琴に」	一 同
聖 書	フィリピの信徒への手紙3章12節～16節	司式者
説 教	「平和をつくり出す人たち」 ～「私学」である平和学園～	夏村 充 牧師
学園歌		一 同
頌 栄	27	一 同
祝 祷		夏村 充 牧師
後 奏	H.A. メッツガー「われらの神 ぐすしきまよ」	

「平和学園」と私 それぞれの思い

平和学園は、70年間、大勢の皆様によって支えられてきました。

その中から、さまざまな立場を代表して、何人かの方々に平和学園に対する思いをお寄せいただきました。



平和学園との出会い

井 苺 堯子

平和学園創立70周年を心よりお祝い申し上げます。

1961年の春、村島婦之先生ご夫妻をお訪ねしたことが、平和学園と私との最初の出会いです。今は亡き夫（1956年3月平和学園高等学校卒業）が、自分の母校とお世話になった恩師を、新婚早々の私に一番に紹介し、自慢したかったのではないのでしょうか。

あれから半世紀を超える月日の流れの中で、私はキリスト教学校教育同盟傘下の私立学校でキリスト教教育を担う教師として、御校とも親しくお交わりをいただいていたいました。その中でいつも思う事なのですが、私共には共通の使命があります。それは、神の前に誠実に生き、真理を追い求め、愛と平和のために喜んで働く青少年を育てるという事です。そのため、私共は日々共通の祈りに支えられているのではないのでしょうか。

相模湾の海の碧さと富士山を望む

広い空と、そして松の緑に囲まれたこの学び舎から、社会に、世界に羽ばたく若者の飛翔の様を、末永く見つけ続けていたいと心から願っています。

（横須賀学院院長・平和学園元理事）

変わらぬ未来を

橘 明子

私は現在、平和学園小学校と幼稚園に勤務しています。そして高校の卒業生でもあります。生徒の時に感じた心地よい風を再び体中に浴びてこの学園で過ごすことができる幸せを感じています。

40年前の平和学園は、正門をくぐると左手にはテニスコート、右手には松林。正面には賀川村島記念講堂がありました。また、現在と同じ鉄砲道を挟んで南側に中学・高校、北側に幼稚園・小学校があり、今と変わらない心安らぐ環境がありました。この頃から先生も子どもたちも、この鉄砲道を行ったり来たりしながら、交流してきました。今は、空中歩廊になっていますが、同じように行ったり来たりしています。幼稚園・小学校の幼い子どもたちにとって、同じ学園の中学・高校の生徒との交流は成長していく過程の中で必ず心に残る経験になることではないでしょうか。学園の中では、現在も、創立以来変わらない温かな校風が幼稚園児から高校生までの子どもたちを包み、日々の歩みがなされていると感じられます。

また、キリスト教教育が学園の中

心にある平和学園は、毎朝の礼拝をととても大切にしてきました。聖書のお話を通して、園児や児童が将来に様々な思いを抱き、未来の平和を祈る姿に希望を持つことができます。

さて、これからの平和学園の歴史は現在生きている私たちに託されていると強く感じます。平和学園の70年の歴史が物語る神様とともにあったこの学園にどうか、変わらぬ未来がありますようにと祈ります。

（幼稚園長・小学校長）

創立者の思いを実現する

武部 公也

平和学園の近くに知人の家があり、松の多い校地で遊んだ記憶があります。青年期に、父が「世界連邦教育者部会」の会員で、父たちから平和学園の意義や賀川先生の思想について話を聞いたことが何度かありました。やがて、賀川先生に興味を持つようになり、茅ヶ崎市立図書館で関連する書籍に目を通したこともあり、また、幼少時より新聞記者に憧れていたため、村島婦之というジャーナリストの生き方にも惹かれるものがありました。しかし、当時は平和学園について社会活動家が建てた学校という認識止まりでした。

賀川先生や村島先生の名前に再会したのは、大学の社会科学の講義の中ででした。大学時代にボランティア活動に携わっていたので、両先生の社会活動家としての活躍を学んだ時は、心が躍りました。この時の感動が、公立の校長から本学園に移った要因の一つでした。現在、尊敬するお二人の創られた学園で仕事のできる喜びを日々実感しています。

3年間学園全体で取り組んだグ

ローバル教育カリキュラムの原点は、まさに建学の精神そのものです。「小さな平和」から「大きな平和」と言うコンセプトも創立者の思いを表したものです。毎朝の礼拝から始まる学校生活は、生徒たちの人間力育成の「原点」で、一人ひとりの生徒の「夢」を拓く過程で大きな力となっています。

70年たった学園は着実に創立者の思いを実現する歩みを進めています。これから世界に巣立つ生徒のために心を込めて指導、支援にあたりたいと思います。

（中学高等学校長）

聖書との出会いを大切に

多田 眞治

10年前に平和学園に奉職し、初めて教職員の全体礼拝で讃美歌を聴いた時の感動は今でもはっきりと覚えています。本当に心洗われるとはこういうものかと思いました。

讃美歌から始まる世界は、私にとってまさにカルチャーショックでした。それまでは、聖書や神を信じるなどという世界とは正反対の、お金がすべて、極論すればお金以外に信じられるものがこの世にあるかというような資本主義の世界で30余年生きてきたからです。

そんな私でしたが、毎朝礼拝で聖書を読むようになりました。聖書でパウロは「金銭の欲は、すべての悪の根です。」（テモテ16・10）と述べています。まだまだ、聖書の何たるかも十分理解できていませんが、神との出会い、聖書の言葉との出会いを大切に過ごしていきたいと思っています。

事務局の仕事は、園児、児童、生

徒、教員を陰で支えることです。平和学園は2016年に創立70周年を迎え、早くも80周年、100周年に向けて歩み始めています。この歩みをより力強く進められるように事務局の一員として、微力ながらその使命を果たし、「真の平和をつくるまことの人を世に送り出す」ための手助けが出来れば幸いです。

（事務長）

大事なことを学ぶ

小6 中澤 光

ぼくは平和学園小学校が好きです。なぜなら一緒に楽しく遊べる友達、優しくて頼れる先生がいるからです。また、平和学園ならではの行事があるからです。身の周りのことに感謝する「感謝の日礼拝」、平和を共有する「平和とともに」、食べ物のありがたみを知る「収穫感謝礼拝」などがあります。6年生になると沖縄に修学旅行に行き戦争の恐ろしさを知りこれからの平和について考えます。

夏休みは「東北平和の旅」に参加して石巻と女川へ行きました。震災直後からずっとボランティアで通い続けていらつしやる先生の知り合いの皆さんの体験談を聞き怖かったです。聞いたことにより3・11で起こったことの重みを感じることができました。被災地を思つて祈る「隣人を覚える礼拝」ではぼくにとって祈りの意味が変わりました。

このような色々な体験を通して教科書で勉強すること以外にも大切なことを学ぶことができました。平和学園ですごせてよかったです。

（児童会会長）

学校は第二の家

高2 C 遠藤 徳之

中学からこの学校に通っている私にとって、アレセイア湘南中学高等学校は第二の家のようです。アレセイアで出会った友達は、家族のように何でも話し合うことができる大切な存在です。ときには厳しいけれどもいつも温かく見守ってくれる先生方の存在も、私の大きな心の支えとなっています。

私は中学2年生から、生徒会活動に携わり、現在生徒会長を務めています。今年は行事の運営のほかに、委員会活動の活性化を目指し、取り組んでいます。入学した頃に比べて、生徒数が増え、校内は活気づいています。

また、グローバル教育の一環で、総合学習での学びも大きく変化しました。しかし、生徒一人ひとりのより充実した学校生活を目指す、生徒会活動の原点は変わりません。先輩方からの伝統を継承し、今後も生徒会活動に尽力していきたいと考えています。(生徒会会長)

愛あつてこそその平和

山田 信幸

学園は、創立70年という時が流れました。私自身を振り返ると、キリスト教主義学校を求めた就職活動を経て、本校勤続35年程になります。時の経つのは早いものです。

学園の目に見える歴史として建物があり、代表的なものは賀川村島記念講堂です。その講堂で毎朝礼拝が行われています。

一方で、目には見えませんが受け継がれているものはキリスト教主義に基づく教育です。

それは、生徒一人ひとりが、神の愛によって生かされていることを知ることが土台にあって成り立つものです。その上で生徒たちが共生の大切さを学び、自立した人格を育み、学業は勿論、部活や行事などを通して、日々の学校生活を生き生きと送れるように全教員でより良いサポートをしていきたいと思っています。

先日、近隣の公立中学校の先生がおっしゃいました。「平和学園の昔もアレセイアの今も先生方は常に真剣に生徒と向き合い一人ひとりを受け入れてくれます。」嬉しい一言でした。

創立の70年前も現在もそして未来も「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」が原点です。平和は愛があつてこそ実現されるものです。だからこそ神の愛を知る人を育てるキリスト教主義学校としてこの学園を受け継いでいきたいと思っています。(中学高等学校教頭)

過渡期だった頃

大澤 瑛美

平和学園創立70周年の今年度は小学校の前身である白十字会林間学校が設立されて百年目にあたります。会報「まつかぜ」(發送数約千二百)では百年の歴史を振り返りました。

10月8日には「70周年」と「百年目」に思いを込めて、横浜ベイ・シェラトンホテルにて20年ぶりに周年記念同窓会を開催しました。約150名の参加者が懐かしい再会に沸き、和やかな歓談に花が咲きました。

私が在学していた昭和30年代は平和学園となつてまだ10年ほどしか経っておらず、白十字会林間学校で

暮らしている子供もみな平和学園に通っていました。各学年に寮生が1割以上いたと思います。全寮制小学校だった白十字会林間学校が戦後通学生を受け入れ、学校制度・福祉制度の変更によって現在の形になる間の過渡期でした。

世の中は戦後の混乱から抜けかかったものの、仕事も住まいもはっきり定まらない人も多く、移動の激しい時期で、生徒の転出入も多く、私たち44回生は52名が入学して卒業時は41名、70人を越える級友と交流しました。6年間変わらず在籍した者は24名でした。(小学校同窓会副会長)

往時を思う

及川 京子

私は学園が創立した年に生まれました。辻堂駅から学園までは往復徒歩で親友と勉強や将来の夢や家族の話をしました。今健脚でいられるのは、徒歩通学のお陰です。

学園の始まりは礼拝です。聖書と讃美歌を持ち、ゾロゾロと長い列で講堂へ行きました。春には御殿場で修養会があり、岡崎先生がボリウー

ムのある声でクイカイマニマニを歌ってくださいました。今も胸に焼き付いています。飯野先生は廊下で出会います。いつも満面の笑みで接してくださいました。音楽の五十嵐先生には、時にはご自宅でキャンディーを頂きながら発声練習をしていただきました。古文の佐々木先生は面白おかしく馴染みやすいよう授業に工夫を凝らしてくださいました。林先生は3学期になると和服姿で教壇にお立ちになりました。体育の加賀先生の授業で6段の跳び箱でどん

ぐり返しをするという技がどうしても出来ず、友人達の励ましで何とか最後にできた事は後々夢にまで出てきました。

また、ドルカスのクリスマスマス礼拝で学年を超えた有志が集い、お揃いの白い胸当ての衣装を着けて歌う先輩の透き通るような声に憧れました。学園周辺の海岸清掃はまさに学園の奉仕の精神そのものでした。

学園で過ごした往時を思う時、伝統ある校風を多くの人にぜひ伝えていきたいと思っています。(中学高等学校同窓会会長)

平和ファミリーのひとりとして

倉澤 条太

「戦後70年」の話題が日本国中にあふれたような一昨年。身近なところに「平和学園創立70周年」があつたのです。戦争の時代を必死で生き抜いた私たちの父母や祖父母たちが「平和」にこめた思いはどんなに大きなものだったのでしょうか。その「平和」を校名の頭にいただいた「学園」に、私を入学させた両親の思いにつながるような気持ちで、この原稿を書き始めました。

1954年生まれの私は、1967年に小学校を卒業しました。その6年間に学び遊んだ思い出をたどると、いつも子供同士のつき合い以上に親同士のおつき合いが広く強く、生涯つづいたようです。そこに、学年を超えた人たちの交流の輪がさらに広がり、平和学園の名をそのまま示すような「平和ファミリー」の伝統が育成されてきたのでしょう。私も50歳を過ぎてから「平和ファミリー」の学年を超えたおつき合いをさせていただいております。

この「激動の時代」にあつても、常に「平和ファミリー」の一員であることを自覚しつつ、組織の形や教育の内容は時代とともに変化しても、学園の発展が、さまざまな面で地域社会に少しでも貢献できるような一石を積み上げる努力を続けていきます。

(平和学園・アレセイア湘南校友会会長)

おかあさんという役割

奥田 幸子

私は平和学園幼稚園の園児のおかあさんです。おかあさんという役割がこんなに温かく強い生き方だと思えたのは、子育ては一人ではないこと、寄り添ってくれる仲間や見守ってくたさる先生方がいることを強く感じながら過ごせたからでしょう。

「園長先生、最近忙しそうですね」「私が行事を増やしているのではないですよ。子どもたちがどんどん考えてやりたいことを持つてくるのです。」と嬉しそうに困っている園長先生の表情が印象に残っています。子供たちは環境が変わる時、お友達とけんかをしてしまつた時、新しいことを始める時、自分は大人に愛されているのだという自信を胸にして考え、自然と周りのことを気に掛ける発言や行動をとれるようになります。ああすごい、私が一人で子育てしているだけではそうはならなかったでしょう。幼稚園の環境と先生方が育ててくださったのだと実感しています。

さあついに卒園か、と3人の子どもたちと通つた6年間を嘯みしめています。大好きな平和学園で子どもたちと一緒に楽しめたこと、おかあさんという自分の存在を好きになれ

たこと、このようなことができる幼稚園がこれからも変わらずに引き継がれていきますようお願い致します。

(幼稚園PTA会長)

神様からの恵み

宮本 加奈子

平和学園創立70周年、そして小学校では100回目の卒業生を送り出す本年度は特に、この学園の歴史と共に賀川先生、村島先生が残された功績を改めて知る様々な機会をいただきました。その都度、お二人の先生方が志向したもの、追い求めた平和、この学校がかもし出す温かく人を思いやる校風、それらを次の世代へ繋げていく大切な使命が、在校生や同窓生だけでなく、保護者にも与えられていることを強く感じています。

思い返せば、平和学園と私の出会いは娘が幼稚園年長の春でした。小学校の先生方が6年生の卒業論文を紹介してくださりながら、学園の建学の精神やキリスト教教育について熱くお話しくださいました。娘は別室での読み聞かせの体験授業で目を輝かせてお話に聞き入っていました。私たち母娘はこの出会いを神様が備えてくださった恵みだと感じています。

この恵は糸となり100年の歳月の中の一人ひとりの在学生と保護者と学園を結んでくれているように感じられます。この糸が今後も途切れることなく増え続け、様々な場面で交わり、時にはその交わりの中で素晴らしい作品を創り出してほしいと切望します。その作品は建学の精神を受け継ぎ学園の発展と前進に繋がることでしょう。

保護者の皆様にも、学園の発展にぜひご協力頂きたいと願っています。

(小学校PTA会長)

喜びと責任と

西野 努

2016年度より保護者会の会長を務めさせて頂くことになりました。今年1年間は全く何もわからないまま、様々な行事や会議に出席させて頂きました。

一保護者でしかなかった立場から、学園全体に関わるという意味で今までは違った角度で学校を見ることができました。先生方がどのような考えとスタンスで教育に関わっているのか、保護者の方々がどのような想いで保護者会やその他の会合へ協力されているのか。また、平和学園がどのような歴史を持つているのか。そして、アレセイア湘南中学高等学校が現在、どのような立ち位置にいるのか。勉強させて頂きました。

創立70周年という記念すべき年に、このような役割に就ける喜びと同時に、今後も学園を発展させていかなければならないという責任を強く感じています。今年については、会長という役割にふさわしい仕事はしておりませんし、できませんでしたが、これから少しずつ、学園に対する理解を深め、保護者会を運営する皆様と共に、生徒たちと学園のためになる保護者会運営を進めていきたいと思っています。

(中学高等学校保護者会会長)

保護者として9年間

星野 俊則

1999年に中高一貫のアレセイ

ア湘南中学高等学校として、新しいスタートを切りました。その年に息子が入学をしてから、平和学園と私との関わりが始まりました。後に次男もお世話になり、合計9年間保護者として、関わらせて頂きました。

子供の成長の時間軸でみると、一番多感な時期にアレセイアの中で過ごせた事は、子供のためには、良かったなと感じます。すなわち、キリスト教の教えが学園生活の基盤となっている事に他なりません。この教えがあったからこそ、背中に一本の軸が入っていて、自らを律する事ができる。そんなブレない心・支えを学ばせて頂いた事に感謝です。

子供の成長と共に保護者も成長します。子育ては、長い自分の人生の中では、ほんの一時でしかありません。まだ旧校舎で茶室「匠」が中庭にあった頃、中学の文化祭で保護者会としての参加は「餅つき」でした。開催時期は11月で、雨降りの中急いで杵臼でついたのを思い出します。実は、ついた餅の半分以上は、餅つき器が仕上げてくれましたけど……。

「餅つき」から始まった文化祭も今は、平和祭として9月のイベントとなりました。保護者会の関わりや規模も大きく成長しました。

一つの世にも通じる不変なもの。そんな内容を教えて頂けるのが、平和学園かと思っています。「平和の子は……」「アレセイアの子は……」と次に続く「……」が、この学園のあるべき姿を示しているかと思えます。今後の学園の成長発展を見守り、応援させて頂きます。

(アレセイア湘南後援会会長)



清々しい空気を吸って

和田 慈平

36年前、私は「平和学園」の正門をくぐりました。テニスコートが脇にあり、正門の垣根が竹で組まれていて、戦前からある海辺の大きな療養所のような印象でした。清々しい空気を吸って正門をくぐったのを覚えています。

在職した36年間は、世の中も、学園も、私自身も大きな変化の中にありました。赴任した当初あつた髪の毛は今では、頭で雪を感じる事ができるようになりました。当初は長らく女子校でしたが、2000年には中高共、男女共学となりました。建物も、体育館、1、2、3号館をはじめ、講堂以外の建物はダイアンサスも含め、みな新しくなつて、当時のもので残っているのは、「賀川村島記念講堂」だけではないでしょうか。制服も、茶色、紺のブレザー、グレーのスーツタイプと様々に変わりました。卒業生に会った時は「あの色の制服の時?」と歴史年表を眺めるように会話をすることもしばしばです。

36年の歳月は公私共に大きな変化をもたせました。ひよっとすると、私たちが気づかない、「ものの考え方」「あり方」も変化してきているかもしれません。入試の難易度も大きく変わり、学校の善し悪しを外部の人から伺うことがよくあります。「良い学校になった」と。でも、嬉しいのと同時に「目に見えない所での変わっていないすばらしいものがあるのに」と心の中でつぶやきもします。

時代が変わっても、学園にはキリスト教信仰にとづくすばらしいもの

の、人への優しさや思いやり、温かさは脈々と残っています。36年前に正門をくぐって感じたあの清々しい海辺の学園が現在もあると信じています。

(元中学高等学校教諭)

卒業アルバムと共に半世紀

栗原 善暉

学園を卒業する一人ひとりの表情を、写真で記録させて頂いています。自然な笑顔を残すことを第一の目的にしつつ、半世紀を超える時が過ぎました。学園で過ごした生徒たちの笑顔が将来の生活での「糧」になり、心の潤いになればよいと願いながら高校のアルバム制作をしてきました。そんな思いで過ごす中で、この学園に通う生徒が羨ましいと思うことがありました。それは、毎朝、必ず礼拝から始まるという学園生活の日々です。また、入学早々の春、卒業間近の秋にそれぞれ2泊3日で行われる修養会です。

修養会は、1年生の時は先生主導で、3年生の時は生徒主体の3日間。1年生の時を思い出しながら3年生の姿を見ると、これ程に成長するものかと目を見張る思いです。宗教としてのお話は聖書科の先生が主に語られますが、校長先生をはじめ、学年の先生方も日替わりで心の内を語られます。本当に羨ましい行事です。私は宗教を持たぬ生活でしたので、始めのうちは戸惑いもありましたが、今では心が休まる思いがします。昨今は多少の讚美歌を口ずさむ事が出来る様になりました。

(クリハラフォト企画)

オープンスクール

小林 直樹

創立70周年記念オープンスクールを10月5日(水)～7日(金)に行い、日常の学園生活や、今年度から完全実施しているグローバル教育カリキュラムの実践をご覧いただきました。

また、5日(水)に行われた創立記念礼拝終了後に、グローバル教育カリキュラムの実践の動画をご覧いただき、一貫教育としての流れを紹介しました。幼稚園児から、高校生までの活動や学習の様子を、実際の映像でご覧いただくことを通して、実感を持ってご理解いただくことができたようです。

オープンスクールの期間中、各学部では、特徴的な授業を紹介し、見学していただきました。幼稚園では園児が自らの手で作り上げていく運動会の様子や英語のアクティビティ。小学校では朝の5分間英語



の授業、卒業論文準備。中学校ではネイティブによる英語の授業やICT機器を用いた授業、弁論大会。高等学校では留学生との交流会や国際英語塾のフアウンデーション授業など、様々な角度から学園をご覧いただくことができました。特に、留学生との交流会では、高校2年生の各クラスに東海大学に留学中の留学生が2名ずつ来校してくださり、互いの国の紹介や交流を行いました。多文化理解を深め、たくましさ育てる良いプログラムとなりました。

期間中、各学部の校内に、学園生活や行事の写真パネルを展示し、ロビニアホールでは、各学部の動画を上映しました。大勢の方においでいただき、学園をご覧いただくとともに、貴重なご意見をいただく機会となりましたことを感謝いたします。
(教育研究所主幹)

平和祭

鎌仲 毅

9月17日、好天のもと、創立70周年記念平和祭が開催されました。

来場者を出迎える正門アーチ、文化部や各クラスの企画、有志団体の発表、保護者会の販売や同窓会の似顔絵コーナーなど、それぞれが来場

された方を十分にもてなし、楽しませていました。

特に、創立70周年である今年は、幼稚園・小学校・中学高等学校の個性が一つとなることを願い、「RAINBOW」というテーマが掲げられました。また、各部が共同で製作できるものを、実行委員会で検討しました。その結果、「小さな平和から大きな平和」という言葉を書いた垂れ幕に各部の児童生徒たちが手形を押したものを製作することとなり、高校生が幼稚園や小学校にお邪魔し、直接協力をお願いしました。こうして完成した垂れ幕は、正門を入って正面部分に掲示され来場した方にメッセージを発信することになりました。また、例年、小学校単独の行事となっていた「平和とともに」の発表が平和祭で行われました。小学校の礼拝や発表は、「平和をつくる人たちは幸いである」という聖句を多くの方に肌で感じていただけるものとなりました。

節目の年の平和祭は、来場された約2000人の方とともに、大きな虹をかけることができました。

(中学高等学校教諭)



法人だより

2016年6月～2017年1月

I. 行事

- ・学園新任研修 7月25日
- ・夏期学園研修 8月29日・30日
- 「キリスト教主義学校である平和学園の存在意義と役割」講師 大澤秀夫牧師 (茅ヶ崎平和教会)
- ・創立70周年記念礼拝 10月5日
- 「平和をつくり出す人たち」～「私学」である平和学園～ (元平和学園理事長・学園長) 夏村 充氏
- ・オープンスクール 10月5日・6日・7日
- ・収穫感謝礼拝 10月5日
- ・クリスマスツリー点灯式 11月18日
- ・幼稚園・小学校PTA 11月11日
- ・中学高等学校保護者会 11月8日
- ・合同クリスマス礼拝・祝会 12月6日
- ・小中高クリスマス礼拝 12月16日
- ・メッセージ 平田一吉牧師 (横浜上原教会)
- ・幼稚園クリスマス礼拝 12月16日
- ・キャロリング 12月16日

III. 教職員人事

- ・'16年12月1日付就任(専任)事務職員 揚張明人

IV. 諸団体

- ・第11回「進路を考える会」 7月1日
- ・第12回「進路を考える会」 12月8日
- ・演題「プロサッカー選手の夢と現実」講師 西野 努氏 (保護者会会長・元Jリーガー)
- ・演題「アジアとの出会い、そして異文化間教育へ」講師 細谷早里氏 (本学園理事・関東学院大学経済学部教授)
- ・第31回クリスマスチャリティパイプオルガンコンサート 12月10日
- ・平和学園パイプオルガン講座 12月10日
- ・6月18日 講師 後藤香織氏
- ・7月30日 9月3日
- ・10月1日 11月12日

II. 会議

- ・理事会 10月13日
- ・常任理事会 6月9日
- ・9月8日
- ・12月1日
- ・1月12日
- ・7月7日
- ・12月1日

V. 施設設備環境関係

- ・幼稚園教室空調機更新 8月
- ・体育館冷水機更新 8月
- ・中高タブレット40台導入 8月
- ・小学校図工室空調機更新 9月

